

東日本大震災 復旧・復興への取組事例 5

(1/2)

取組事例の名称		防潮堤の仮復旧
概要	対象	防潮堤
	種別	<input type="checkbox"/> 救援 <input checked="" type="checkbox"/> 機能回復 <input type="checkbox"/> 新・増設 <input type="checkbox"/> 復興 <input type="checkbox"/> その他 ()
	規模	防潮堤復旧 L=275m (6箇所の合計)
	実施会社	(株)フジタ東北支店
	実施場所	宮城県 石巻 市・町・村
	発注者	宮城県

1. 工事等取組の目的及び概要と採用した技術名称

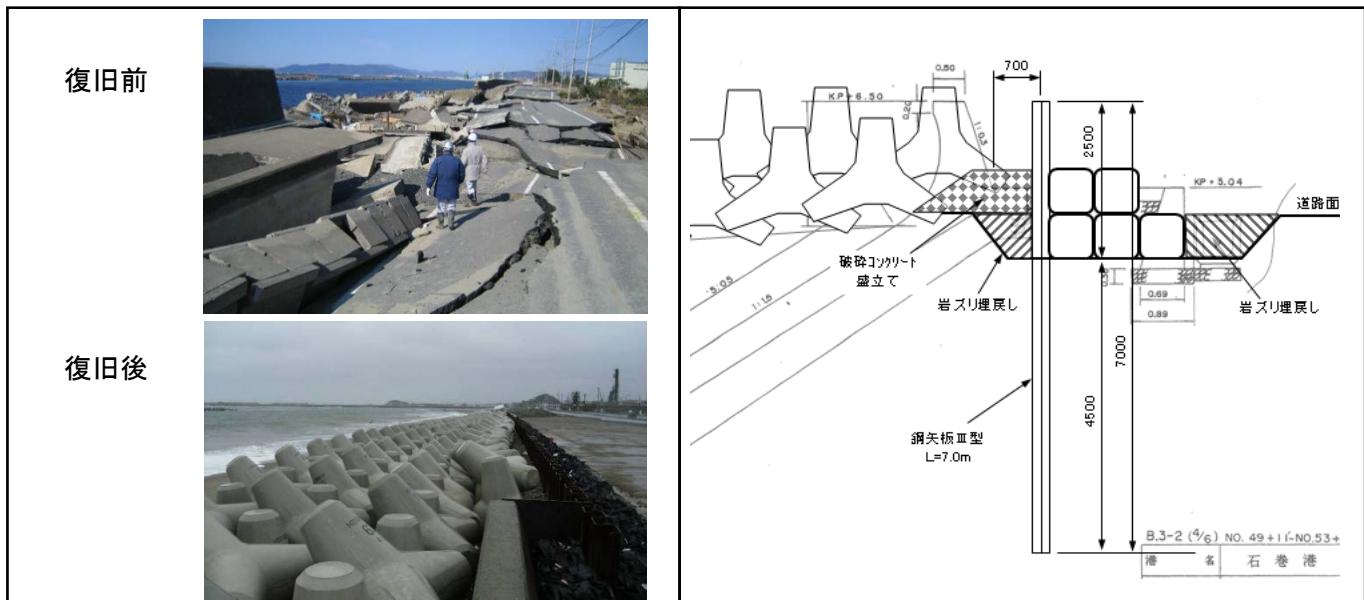
名称：鋼矢板+消波ブロック+耐久性大型土嚢

延長10m～200m程度の損壊箇所6箇所を、鋼矢板(Ⅲ型L=7.0m)、消波ブロック(4t)、耐久性大型土嚢を組み合わせ設置し仮復旧を行った。

2. 当該技術を採用した理由、当該技術に期待した成果

震災後の資材調達、防潮堤の耐久性、施工速度を考慮し、発注者に復旧案を提示し承認を受けた。

(写真、イラスト)



取組事例の名称	防潮堤の仮復旧
3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓	<p>・鋼矢板・耐久性大型土嚢は、復旧依頼後に直ちにメーカーと協議し、確保に成功した。</p> <p>・土嚢作成用土砂・前面盛土材は現地発生材を再利用し、資材不足に対応した。</p> <p>・消波ブロックは石巻港に作り置きしてあった製品で、運搬・設置可能な最大なものを選定した。</p>
4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価	<p>・復旧後約1年半が経過するが、機能低下は見られない。</p>
5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術	
6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項	<p>・緊急資材の調達ルートは常時確保しておく必要があると感じた。</p>
NETIS登録	